

■ 予算を立てる

歌集出版に伴う費用は、主にページ数と部数で決まります。原稿が手書きでもパソコン入力でも費用は変わりません。

四六判ハードカバー（上製）の目安は下表の通りですが、ソフトカバー（並製）の雰囲気をお好まれる方もおられ、費用はより安くなります。

○ 四六判ハードカバー（500首以内）の費用の目安

	300部	500部	700部
200ページ	1,080,000	1,300,000	1,510,000
250ページ	1,320,000	1,580,000	1,860,000
300ページ	1,560,000	1,890,000	2,220,000

（円、税別）

※ 歌稿が整っている場合の費用です。

選歌や添削をご希望の場合、
編集費（30万～）が別途必要です。

※ 歌数が500首を超える場合、

歌書（評論集・エッセイ集等）の場合は
校正費（5万～）が別途かかります。

※ 部数は100部でも200部でも承りますが、
費用が大幅に下がることはありません。

歌集・歌書に関するご相談は

下記までお気軽にどうぞ。

小社編集長がご対応いたします。

現代短歌社／一般社団法人三本木書院

〒171-0031

東京都目白2-8-2アパートメント鶉C3

TEL03-6903-1400 FAX03-6903-1401

メール info@gendaitankasha.com

歌集出版 の ご案内

今年こそ、
歌集を出す。

gendaitankasha

お預かりした歌稿が一冊の歌集として

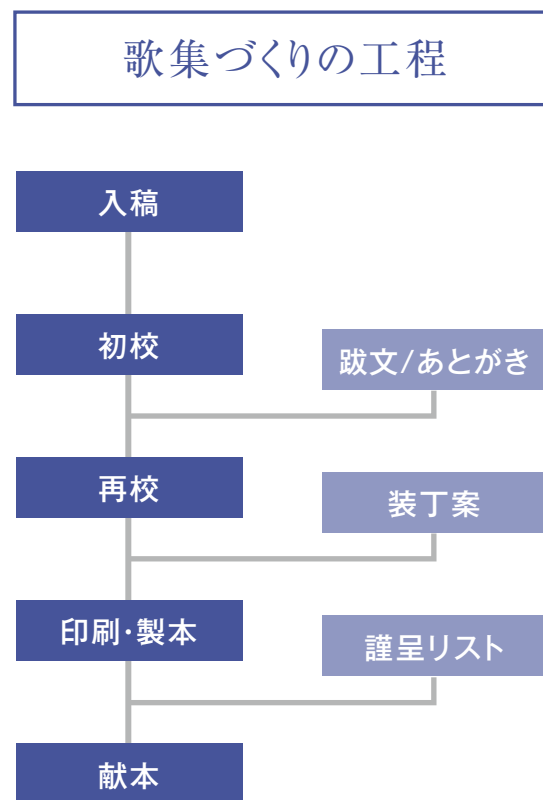
上梓されるまでには、およそ3ヵ月かかります。

誕生日や記念日等、いつまでに出すという発行

日を定めたら、その日からさかのぼって3ヵ月前

までに歌稿を整えて下さい。

歌集づくりの流れを順を追って確認しましょう。



■ 歌稿を整える

歌集づくりは、歌稿から選歌し、何首かずつにまとめて並べ替え、一連ごとに小題を付し、章立てすることから始まります。パソコン入力でも手書きでも可です。

歌稿をご自身で整えることがむずかしく、小社で歌稿をお預かりし、選歌からお手伝いするケースもしばしばありますが、その場合の歌稿は結社誌等のコピーで差支えありません。



■ 入稿する

本のサイズはさまざまですが、歌集で標準的なのは四六判(130mm×188mm)かA5判(A4の半分)です。

歌の組み方には、1行書きか2行書き(20字詰めで折り返す)か、1ページ2首組か3首組か、小題ごとに改ページするかしないか等のポイントがあります。

お手元の歌集を何冊か開いて、出来上がる歌集の姿をイメージしてみてください。



■ 校正する

ゲラ(校正刷り)に朱を入れ、歌集の内容を仕上げていく段階です。

小社でも、仮名遣いの誤りや固有名詞の表記等を正す校正・校閲を行い、初校、再校と2度にわたりゲラをご確認いただきます。

■ 装丁する

表紙はクロス(布)か紙か、カバーはどんなイメージにするか、お好きな色等、歌集の体裁についてのご希望を伺い、装丁家に依頼して案をお出します。



■ 部数を決める

印刷に入る前に部数を決めます。部数は献本される数に加え、お手元に50~100部は残されることをおすすめしています。

歌の仲間、友人・知人等、謹呈する方のリストアップはひと仕事ですが、毎年お出しになる年賀状の枚数が一つの目安になります。

小社でもリスト作成(図書館、メディア、日本歌人クラブ等)をお手伝いします。



■ 献本する

謹呈リストにもとづく献本はご自身でなさる方もおられますが、小社でも1件220円※で発送作業を承ります。

※厚い本、大型本では1件520円~かかる場合があります。